

令和6年度一関市農業技術開発センター運営委員会会議録

- 1 会議名 令和6年度一関市農業技術開発センター運営委員会
- 2 開催日時 令和6年7月23日（火）午前10時から午前11時まで
- 3 開催場所 南部農業技術開発センター
- 4 出席者
 - (1) 委員 平淵英利委員（委員長）、千葉守委員、後藤忠行委員、佐藤正弘委員、遠藤健志委員、小島幸喜委員、佐藤幸子委員
※欠席者 設楽里美委員、阿部晋委員、千葉健司委員、大越留美子委員、小野寺勝義委員、佐藤洋子委員、千田広子委員
 - (2) 事務局 小野寺啓農林部長、
千葉清農林部次長兼生産流通課長兼農業技術開発センター所長、
佐藤裕生産流通課主事兼農業技術開発センター主事、
千葉広南部農業技術開発センター副所長兼農業技術員、
米倉清徳南部農業技術開発センター農業技術員、
佐藤克朗北部農業技術開発センター副所長兼農業技術員、
佐藤尚志北部農業技術開発センター農業技術員、
齋藤哲也南部農業技術開発センター主任主事

5 議題

- (1) 令和6年度事業の取組状況について
- (2) 令和6年度事業の今後の取組について
- (3) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 0名

8 挨拶

小野寺啓農林部長

委員の皆様方には、日頃より農林業政にご理解、ご協力いただいておりますことに、この場を借りてお礼申し上げます。

一関市農業技術開発センターは、旧花泉町と旧大東町において、整備運営されてきた

南部・北部の両センターを平成23年度から農林部の所管とし、農業技術の情報提供、研修、研究や土壌分析などをおこなっております。

南部農業技術開発センターでは、小菊の有望品種を5品種から2品種に選抜する事業に取り組んでおります。

国では、2050年までに耕地面積の25%を有機にするという目標のもと、有機農業を進しておりますが、当市でも北部農業技術開発センターにおいて、有機農業推進のため、一関地方有機農業推進協議会の運営を支援しております。

市では、中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金などによる農業生産活動の維持に対する支援などを進めておりますが、農業技術開発センターでは、土壌分析診断により、肥料高騰による生産コストを抑えるため、診断結果に基づいた肥料設計、堆肥の利用に結び付く取組を支援しております。

委員の皆さんから、様々な意見をいただければ幸いです。

9 審議内容

(1) 令和6年度事業の取組状況について

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑・意見を求めた。以下、質疑応答等。

委員 土壌分析について協力いただき感謝申し上げます。

それぞれの部会でとりまとめて土壌分析に出しているが、生産者から突発的に土壌分析を依頼されたものについて、分析終了の時期を分析依頼の際に、J Aの部会担当者と共有していただきたい。

事務局 農業技術開発センターでは、分析結果について、報告希望日を依頼者に確認したり、分析時期を依頼者に伝えたりした上で分析している。

分析後に生産者とトラブルにならないように、引き続き部会担当者と分析終了時期についての情報を共有していく。

委員 試験栽培をする小菊の品種はどこで決めたか。

事務局 いわて平泉農業協同組合の花き部会の担当者及び一関農業改良普及センターの担当者に、未導入のもの、栽培例が少ないものということで選んでいただいた。

委員 小菊は、需要期に開花させる技術が重要だと思うが、電照技術の実証は今回の事業で行うのか。

事務局 いわて平泉農業協同組合花き部会の担当者から、既に管内で試みた例があり、思うような結果とならなかったということで今回は電照技術については試験していない。

開花を促進又は抑制するホルモン剤の効き目について試験している。

委員 田んぼの学校に参加する生徒はどここの学校か。

事務局 大原小学校と大東小学校である。

委員 本年度の有機米の学校給食への提供について、4回にできないかと考えている。

市全体に田んぼの学校の開催をPRできるような方策を考えてもらいたい。

事務局 有機農業の推進に向けて取り組んでまいる。

委員 田んぼの学校の田植えはどのような内容か。

事務局 午前9時30分から正午までの時間で行っており、参加する生徒も低学年からなので、説明して伝えられることについては限りがあるが、農業を好きになってもらえればという思いで開催している。

委員 体は食べ物でできており、食べ物は大切であるということを教えている。

委員 有機農業の地域おこし協力隊員募集に対する反応は。

事務局 興味を持っている方が4名いるという情報があるが、着任につながる直接的な情報はない。

9月に採用面接、10月に着任ということを計画している。

(2) 令和6年度主要事業の取組計画について

令和6年度事業の今後の取組について説明した。

委員 小菊の事業は、本年度は品種特性の把握のみか。

事務局 品種ごとに試験区を設けて、ホルモン剤の効果についても調べている。

委員 小菊の生産に取り組む人は少なく、ピーマンの生産に取り組む方が多いように思われる。

黄色、白色、赤色以外の色もあるといいのではないか。

有機米は、慣行栽培米と比較して触感は違うのか。

委員 東京の米の卸業者の方からは冷めてもおいしいと評価を受けている。

成分を調べるとミネラル分が多いようで、ミネラルは豊かな生態系に由来し

ているようだ。

委員 有機農業の目標値はあるか。

事務局 有機農業実施計画において、令和10年度に目指す目標として、面積を12.42ヘクタールから17ヘクタールに拡大、販売数量を26.7トンから37トンに拡大、学校給食への有機農産物活用回数を年5回にすることとしています。

(3) その他

事務局 採花した小菊のいい活用方法がないか悩んでいる。

10 担当課 農林部農業技術開発センター